



始





本云

以貫之自筆本書寫本也

件本於皇太后宮燒告畢

和哥等不似難本其說頗詳善

通云



此集可用やふらじつは人の心

真名序をたぬと十ヶふらじ

次予有祈  
所見也  
のいそれさるるさるる

らふよの申す前の人

いさわきいさなすいさな

れそいんいさなすいさな





みづとめはくこの上は  
なぐらうきせぬな  
花はなぐらうきせぬな  
はむかひのよきま  
なはまはくはくはく  
うれのうたをうたへ

なまらうきせぬな  
くあつちをうたへ  
かにみじぬたかみ<sup>種</sup>を  
あつちをうたへ  
なむなのるつたを  
をうたへ



わまのまじ  
のしんぞで  
のまじり  
いふた

となくさむらびうたを  
このうた、あらけらのひら  
今まじりわなう時よわ  
下には今まじりあれま  
かきけきをまじりあ  
まはかきけきをまじりあ

したてまじり  
あつきの  
のまじり  
まじり  
まじり  
まじり  
まじり  
まじり  
まじり  
まじり  
まじり

したてまじり  
あつきの  
のまじり  
まじり  
まじり  
まじり  
まじり  
まじり  
まじり  
まじり  
まじり

あまじり  
まじり  
まじり  
まじり  
まじり  
まじり  
まじり  
まじり  
まじり  
まじり



あつたての...  
あつたての...  
あつたての...

りか...  
りか...  
りか...

り...  
り...  
り...

の...  
の...  
の...

あ...  
あ...  
あ...

く...  
く...  
く...

あ...  
あ...  
あ...

あ...  
あ...  
あ...

あ...  
あ...  
あ...

あ...  
あ...  
あ...

あ...  
あ...  
あ...

あ...  
あ...  
あ...

如古語拾遺并  
日本皇代記

若神降之初

伊弉諾伊弉  
册二神共為

夫婦半太

別國及山川草

木次生日神

月神夜夜生

東葉委神

いふ葉幾

鳥稱元行少

有不害

本三有下捨

すのめ...  
すのめ...  
すのめ...

あ...  
あ...  
あ...

あ...  
あ...  
あ...

あ...  
あ...  
あ...

あ...  
あ...  
あ...







うたのさかむじりあま  
のこのうたはくぐりあ  
つはりのむらさきも  
ほにきりうたにた  
あまのみこひなま  
下につれうた

白鳥  
合杉  
馬松  
手集

一風

考別紙

なにきほふさ  
このまはきり  
大なるさくら

二風

考別紙

ゆたふはきり  
さくらにたも  
くこのあらし

白鳥在拾遺集  
物右ツミ  
志質里







音雅

柴在寔

未四

いづくはきい... 音雅

いづくはきい... 柴在寔

いづくはきい... 未四

いづくはきい... の

いづくはきい... 六首頌

いづくはきい... 在催馬梁

いづくはきい... の

此殿

糸紙

いづくはきい... 此殿

いづくはきい... 糸紙

いづくはきい... 此殿

いづくはきい... 糸紙

いづくはきい... 此殿

いづくはきい... 糸紙

いづくはきい... 此殿



てふはなをばらばらと  
はなをばらばらと  
はなをばらばらと  
はなをばらばらと  
はなをばらばらと  
はなをばらばらと  
はなをばらばらと  
はなをばらばらと

凡そ上古帝  
也

春の花のあしし秋の  
月のよのよはははは  
人よよよよよよよ



つげは、奇をたてまつ  
くしめしむるは  
まなまじくたす  
ころもあはれは月  
よばゆきくし  
またたいたまね

みたふくしむかしく  
ばら、あつとまじし  
しじまあるの  
かきし  
まらばし  
かきし







のさすははるるるるる  
はるるるるるるるるる  
にふゆるるるるるるる  
なをすはるるるるるる  
のあはるるるるるる  
はるるるるるるるるる

はるるるるるるるるる  
うるるるるるるるるる  
たしはるるるるるるる  
なとあはるるるるるる  
さかかへ野中め  
川をくはるるるるるる







當見皇代記

或物言依澤にけし時よらるらん

也投身を朱太阿女帝御體

其時有念らるるのたけしよ

隨夫和語にやうたのうんをいしる

行株津奇種余良常子又

所入此集りししたたやならむか

龍田河奇種同余良常子

此歌返歌又人九等也以聖らぬ

式号内女實

倉  
從持歌前時皇  
惟或御時下

皇代記  
天智天皇御  
甲斐國

天白又新平城  
宮故号天白良

又天智天皇  
稱阿武原号

天今用別天  
皇

人そみかをあらせたわ  
こふなるつし林のま  
へたけりたのまにるつろ

わみらひるつとめめ

之由見万葉集  
此以前以後不  
詳亦人入同  
時由見











度々遺言  
百冊九年也  
四代也誰物  
我上満  
何れ十代可給ん

りいさるのいふも  
すにたなしきまにけり  
しつものこさるもいた  
十一社の人しにけり  
はらららららららら  
いさくぬたは

たかまはやうなれ  
れまらめかちら  
しつものなま  
人あもなまら  
すれいいたれ  
まらなした











はるばるいはいさうは  
なむたのなやめく  
こゝろあるにたわに  
いぬをなうなるうた  
れもなうしはたうし  
くふぬしはうのさ  
ま

なむたのなやめく  
こゝろあるにたわに  
いぬをなうなるうた  
れもなうしはたうし  
くふぬしはうのさ  
ま

やうしはたうしは  
くふぬしはうのさ  
ま  
なむたのなやめく  
こゝろあるにたわに  
いぬをなうなるうた  
れもなうしはたうし  
くふぬしはうのさ  
ま

なむたのなやめく  
こゝろあるにたわに  
いぬをなうなるうた  
れもなうしはたうし  
くふぬしはうのさ  
ま

大和言



百八十三頁

此付

但不得

有少

このまじりくは

今しつうたのまじり

そのまじり

このまじり

あまのまじり

まじり

普通

このまじり

かつまじり

まじり

このまじり

まじり

このまじり

まじり

即位以末昌  
泰三年并八  
五年并八  
帝寛平九年  
二為又所仍格  
九回以讓

年行先帝  
新帝有并  
是以先帝  
年行先帝  
新帝不行降  
之故之但近  
百何新帝



Handwritten text in a cursive style, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written vertically from right to left.

Handwritten text in a cursive style, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written vertically from right to left.

貴之集  
字書初時  
Handwritten notes or a signature block at the bottom of the page.



万葉集同  
 入心若失ん將一  
 不付傳養義痛  
 以入心新性生  
 二六  
 以心若失ん將一  
 不付傳養義痛  
 以入心新性生  
 二六

川ぬ東門のふゆさうこ  
 ぬめたふゆさうこ

万葉集に  
 入心若失ん將一  
 不付傳養義痛  
 以入心新性生  
 二六

八八

川ぬ東門のふゆさうこ  
 ぬめたふゆさうこ  
 万葉集に  
 入心若失ん將一  
 不付傳養義痛  
 以入心新性生  
 二六

万葉集に  
 入心若失ん將一  
 不付傳養義痛  
 以入心新性生  
 二六

万葉集に  
 入心若失ん將一  
 不付傳養義痛  
 以入心新性生  
 二六

万葉集に  
 入心若失ん將一  
 不付傳養義痛  
 以入心新性生  
 二六

万葉集に  
 入心若失ん將一  
 不付傳養義痛  
 以入心新性生  
 二六

万葉集に  
 入心若失ん將一  
 不付傳養義痛  
 以入心新性生  
 二六

万葉集に  
 入心若失ん將一  
 不付傳養義痛  
 以入心新性生  
 二六

万葉集に  
 入心若失ん將一  
 不付傳養義痛  
 以入心新性生  
 二六

万葉集に  
 入心若失ん將一  
 不付傳養義痛  
 以入心新性生  
 二六

万葉集に  
 入心若失ん將一  
 不付傳養義痛  
 以入心新性生  
 二六

万葉集に  
 入心若失ん將一  
 不付傳養義痛  
 以入心新性生  
 二六



七歌千首也  
西行法師

し余不空  
事女十不種  
定教ん行業  
善ん  
但云況云  
向歌う人  
標上十首  
後首  
十九首  
勅  
如  
九十九

けいせいのこころを  
しりたててはたの  
か

春夏秋冬

はるなつあきふゆ  
のうたを  
しりたててはたの  
か

てらりたともしりた  
か

けて古今和歌集  
のうた

くたをひあつめ  
て

しりたはたの  
か

のうたを  
しりた

のうたを  
しりた

のうたを  
しりた











Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is arranged in several lines, starting from the right side of the page and moving left. The script is dense and characteristic of early modern European handwriting.



歌六十八首

此中込歌一

# 古今和歌集卷第一 春秋上

ゆららうらうらに春乃まをるに  
元方

うめつ  
在原のものを  
棟梁男

うららのうららもろはすに  
入歌古首

けりむとまをるこころこや  
園部大御方  
満子後夏  
改三

合點  
新撰集  
歌也

いふ心こころこや  
いふ心こころ

さるのたらもろのうらら  
九十七首

すのつらゆき  
元時御書  
所預後為

考別紙

本文也  
かてららうらら  
水

のこほりも春たけけの  
後五位上木  
工才从童

坊子久

かせやうらら  
音

たいとら  
其中短歌  
一首旋頭

いふ心こころ  
一首

全題之字  
十七首  
忠孝等一首  
之早下也相加件  
等九十八首  
句候  
留録  
也  
看定  
百二首



除忠孝年と死

こころのこころのこころのこころ

こころのこころ

二条のまはまのくららの

こころのゆうた

ゆうたのゆうたのゆうた

なつこころのまのこころ

なつこころのまのこころ

千時前集

后吟

諱高十首

清和女御陽

成院女后贈

太政大臣后

長良女后

伴守后

上流女后

為五節集

姪

追本十年  
三月薨

催馬樂梅

枝哥也

裂紙

春のけくたもこころのこころ

はなはなはな

ゆうたのまのこころ

らまのまのこころ

世首

左少将良家

宗貞二男

由性信都

才寛平

春たぐは花やみこころ







にほむやいとあつあつ

しるくにてあなづつ

いふかののののの

いふかののののの

いふ

いふかののののの

いふかののののの

いふかののののの

いふかののののの

いふかののののの

いふかののののの

いふかののののの **春**

いふかののののの

今三首

六首

月株三文

屋康秀

元任  
任経殿助







まのよりのり 五首

紙 ぬれのつよおのさたあは

たくらつてううくらまをい

ううらうらつにうやふ

まふん

讀人不知

四百五十四首

其書短

旋以三

但此中者注作者十三文

無名子物教  
目錄無相違  
但各一有言加  
餘一有言加

くくらまのこまをいつ  
こくらまのこまをいつ  
こくらまのこまをいつ  
こくらまのこまをいつ

在原のむすめ 四首 棟梁

くらたぐいさむねにうらな  
くらたぐいさむねにうらな  
くらたぐいさむねにうらな  
くらたぐいさむねにうらな

延平上坑前  
守昌泰元  
平業書

くらたぐいさむねにうらな  
くらたぐいさむねにうらな  
くらたぐいさむねにうらな  
くらたぐいさむねにうらな

のつらうくいさむねにうらな  
のつらうくいさむねにうらな  
のつらうくいさむねにうらな  
のつらうくいさむねにうらな



早妻を伴  
のり

わ。くは。り。つ。り。せ。い。せ。い。り

わ。は。せ。い。せ。い。り

わ。は。せ。い。せ。い。り

別紙

わ。は。せ。い。せ。い。り

別紙

わ。は。せ。い。せ。い。り

わ。は。せ。い。せ。い。り

わ。は。せ。い。せ。い。り

わ。は。せ。い。せ。い。り

仁和のふのみのみ

仁和のふのみのみ

仁和のふのみのみ

わ。は。せ。い。せ。い。り

二音  
二克孝天白皇  
号小松帝  
仁明天皇  
三子甘願自  
后深子  
太政大臣  
継



田に...  
 うた...  
 られ...  
 な...  
 け...  
 の...  
 の...  
 の...

葉人標

だ...  
 の...  
 の...  
 の...  
 の...  
 の...  
 の...  
 の...

五首  
 目...  
 三...  
 民...  
 察...  
 親...  
 奈...  
 二...  
 天...  
 内...  
 六首  
 目...  
 干...  
 上...  
 度...



女下注為竟

平法王所傳

親之由見之

和語

いりやうやうりやう  
うたふくくアれこむ  
とくれしめにまき  
たくこつりやう  
かこゆい  
かこせここのふとせうけの  
いんらとよのこのこ  
かふこさわたり  
かなやまはるしとわかふ

智卒六首  
林正寺目六  
一首之美

こころしきうこころ  
此は、  
はしらのけつ  
はしらのけつ  
わらやまふさふさめ  
俗の  
か  
し  
た  
り  
今

但相不定手  
二首十九首

十六首  
三音俗名

宗貞入道也

大納言女世六

男寛年三

歳七十六

良春宗貞

廣人從五上

在道才時素禪

三、三月廿五日  
皇朝幼同月  
日出家



右様先夫  
集元伴大  
牙廿三首  
左

とらふふしくける春は  
そのまにあらたはし  
わ社うらむわゆる  
花らら乃たつさきし  
山中にたつたふくも  
こころの  
かたのうらをさ  
こころのうらをさ  
なむくうら

三十八  
三回

智六の予四

首の定國屏  
風千七首著

春とむくのりつるなま  
うらむららゆきもわに

凡河のつね

こころのうらをさ  
なむくうら

かたのうらをさ  
なむくうら  
こころのうらをさ  
なむくうら

空  
其中短一首  
于時日斐  
有伝木七  
月十三日  
收才大目  
後任法路  
共首其中短  
藤健彦  
七条子向  
天久為伴  
守町号



















しらりしきあはれ  
しるしきあはれ  
のりしきあはれ

しらりしきあはれ  
しるしきあはれ  
のりしきあはれ  
しらりしきあはれ  
しるしきあはれ  
のりしきあはれ

しらりしきあはれ  
しるしきあはれ  
のりしきあはれ  
しらりしきあはれ  
しるしきあはれ  
のりしきあはれ

在藤九集  
詞

山た  
しらりしきあはれ  
しるしきあはれ  
のりしきあはれ  
しらりしきあはれ  
しるしきあはれ  
のりしきあはれ



後醍醐天皇

忠仁女皇后

成天皇女

源朝野

文徳天皇清

和子后

くつろのいけさちめのお  
清和皇后  
のたのしみとまじりて清和院北也

さよほのむすぶる三首

忠仁

冬間公二男

あはれとあはれとあはれと  
あはれとあはれとあはれと  
あはれとあはれとあはれと  
あはれとあはれとあはれと

あはれとあはれとあはれと

あはれとあはれとあはれと  
歳人及中

在伊勢物語

在兼玉集

共人撰

在後苑集

河原花より  
まはけりし  
あはれとあはれと  
のち北より  
こゝろ

よのちのたのしみとあはれと  
あはれとあはれとあはれと  
あはれとあはれとあはれと  
あはれとあはれとあはれと

特行平一  
文同母

あはれとあはれとあはれと  
あはれとあはれとあはれと  
あはれとあはれとあはれと  
あはれとあはれとあはれと

あはれとあはれとあはれと  
あはれとあはれとあはれと  
あはれとあはれとあはれと  
あはれとあはれとあはれと

共人撰

あはれとあはれとあはれと  
あはれとあはれとあはれと  
あはれとあはれとあはれと  
あはれとあはれとあはれと



業  
糎

Handwritten musical notation on the right page, consisting of several staves of notes and rests.

Handwritten musical notation on the left page, consisting of several staves of notes and rests.















借ら通<sup>二</sup>よもてたかりばら<sup>二</sup>首

目ら推高親王  
号小所官

文徳天皇御弟一  
王子母は皇太后  
静子公女下末  
房女也

人乃<sup>一</sup>くもくもく<sup>一</sup>  
な<sup>一</sup>じら<sup>一</sup>と<sup>一</sup>と<sup>一</sup>と<sup>一</sup>  
か<sup>一</sup>く<sup>一</sup>し<sup>一</sup>ら<sup>一</sup>ら<sup>一</sup>  
言林院に<sup>一</sup>く<sup>一</sup>く<sup>一</sup>  
け<sup>一</sup>る<sup>一</sup>も<sup>一</sup>も<sup>一</sup>も<sup>一</sup>  
か<sup>一</sup>く<sup>一</sup>く<sup>一</sup>く<sup>一</sup>

三首  
月之承均  
元慶二年

消籍てま  
ふりや

春<sup>一</sup>る<sup>一</sup>く<sup>一</sup>く<sup>一</sup>  
く<sup>一</sup>く<sup>一</sup>く<sup>一</sup>く<sup>一</sup>  
く<sup>一</sup>く<sup>一</sup>く<sup>一</sup>く<sup>一</sup>  
く<sup>一</sup>く<sup>一</sup>く<sup>一</sup>く<sup>一</sup>

く<sup>一</sup>く<sup>一</sup>く<sup>一</sup>く<sup>一</sup>  
く<sup>一</sup>く<sup>一</sup>く<sup>一</sup>く<sup>一</sup>

花<sup>一</sup>ら<sup>一</sup>ら<sup>一</sup>ら<sup>一</sup>  
く<sup>一</sup>く<sup>一</sup>く<sup>一</sup>く<sup>一</sup>  
く<sup>一</sup>く<sup>一</sup>く<sup>一</sup>く<sup>一</sup>  
く<sup>一</sup>く<sup>一</sup>く<sup>一</sup>く<sup>一</sup>











雅院

或高僧を停

已考坊也

中河門北五

と東らう

雅院用の

さくらのくみみ

みつらうたな

なるをくま

一首

田村

さくらのくみみ  
みつらうたな  
なるをくま

さくらのくみみ

田村

さくらのくみみ

田村

さくらのくみみ















寛平漸時子守の宮

の号合ありま

るも

しん者のまはうはか

らんはうはか

らんはうはか

たはうはか

もられいふれい

さしあわらう

のちうまのい

春のうた

はうはか

みわ山を

わらう

やく

寛平院の

の

の

け

寛平院  
親主常康  
仁内天白事  
七子







こころこころわとのふた  
うらむもろあふは  
れをいりもあふれ

寛平西田一守の  
下れうた合のふた

サクラハナ  
にわたるはたわら  
うらむもろあふれ

目録  
早末古位  
下結才大孫  
子院勝太本  
清源成経道

さくらのはな  
にわたるはたわら  
うらむもろあふれ

おのころのふた

おのころのふた  
うらむもろあふれ  
れをいりもあふれ







春のうきうきたるはなを  
うきうきとてはなを  
うきうきとてはなを  
うきうきとてはなを  
うきうきとてはなを  
うきうきとてはなを  
うきうきとてはなを  
うきうきとてはなを  
うきうきとてはなを  
うきうきとてはなを

うきうきとてはなを  
うきうきとてはなを  
うきうきとてはなを  
うきうきとてはなを  
うきうきとてはなを  
うきうきとてはなを  
うきうきとてはなを  
うきうきとてはなを  
うきうきとてはなを  
うきうきとてはなを

うきうき



らるるをいれをいれしうらうら  
むよめはえわつこもん  
ししものこと

ふきのこころち 十首

茨

あはれのいろもうらちを  
わきいたつたわつこもん  
なほのこころち

仁和の中島うらやま所

のいこゝろの合せ  
しけつめさ  
あせ

花集

あはれをいれをいれし  
むよめはえわつこもん  
ししものこと

しつれ山にいし女のだ  
ほくあつとまふに  
てつこころち



たつた

あつたゆゑにたる北山に  
いふれさみりもさうりつと  
花うちりも

寛平四年ははいつの

奇合のうた

もろのうたははははは  
こしをかきしるはははは  
三つははははは

山てつたまのうた

らにうた

たつたうたははははは

たつたうたははははは

たつたうたははははは

寛平四年のうた

官あり奇合のうた

奇合のうたははははは



あはれなるをば  
あはれなるをば  
あはれなるをば

あはれなるをば  
あはれなるをば  
あはれなるをば  
あはれなるをば  
あはれなるをば

あはれなるをば  
あはれなるをば  
あはれなるをば

あはれなるをば  
あはれなるをば  
あはれなるをば  
あはれなるをば  
あはれなるをば  
あはれなるをば  
あはれなるをば  
あはれなるをば

あはれなるをば  
あはれなるをば  
あはれなるをば  
あはれなるをば  
あはれなるをば

思難



人なりきし

たに... 念と

後九集詞云

山守の花子

二一但上文字

よも... 又た

こし... の

後九集詞云

あやち... の

をよ... の

又在... 集

者...

あつた... の

た... の

た... の

た... の

た... の

抄本...



るにこそ

たにこそ

のまにこそ

かたにこそ

あまにこそ

このうまにあらんれはさく目清文

たにこそあれの手まもる

まらにこそたにこそ

たにこそあらんれはさく目清文  
皇太后嘉智子  
又媛成并淳  
和土後宮也

いぬこそ

又いぬこそ

かたにこそ

まらにこそ

とにこそ

いぬこそ

あはれこそ



Handwritten musical notation on a single staff, consisting of a series of rhythmic notes and rests.

Handwritten musical notation on a single staff, including a clef and several notes.

Handwritten musical notation on a single staff, featuring a series of notes with stems.

Handwritten musical notation on a single staff, showing a sequence of notes and rests.

Handwritten musical notation on a single staff, including a clef and notes.



貞文哥合の  
此哥合等  
有正音  
長永平二月  
廿九日

別紙  
寛平御時  
此哥合の  
たま

この書を  
手紙に  
したくは

しを  
今

新垣集  
平仲家哥  
合仲者哥  
但件哥合  
春者哥

この  
あ



のさしよこりてんくは  
しきふ

なからぬ物

ぬれつうしんた  
ごのうらに春かくん  
わしは

ていの院の奇合のう

かた

はのこもた  
きたしもんつとやま

よれのつは

追本  
目  
冬

世



琴音

古今和歌集卷第三

集

たけなすけいんむらさき  
はるさけいんむらさき  
つらさけいんむらさき

この子冷あらんらん  
この子冷あらんらん  
この子冷あらんらん

紙

まのりしはた

あなれてしるしをあら  
あなれてしるしをあら  
あなれてしるしをあら

集  
詞

いせ

二  
元慶三年

本朝天足  
之使也  
教達天宮所  
在依家門有栞











ものなまふちねは、  
はつせそ

ほら、まはななく、  
なはなれまし、

後集詞

あつた、  
いふ、  
を、  
は、  
な、

あつた、  
いふ、  
を、  
は、  
な、

あつた、  
いふ、  
を、  
は、  
な、

あつた、  
いふ、  
を、  
は、  
な、

あつた、  
いふ、  
を、  
は、  
な、

あつた、  
いふ、  
を、  
は、  
な、

あつた、  
いふ、  
を、  
は、  
な、

あつた、  
いふ、  
を、  
は、  
な、

あつた、  
いふ、  
を、  
は、  
な、



林孝院持

いさよのいさよ  
しの平仲ん他  
お平仲ん他  
断行命

わつと

くわん

一首  
目録三國町

仁明史表  
貞登母

しとてこれ

くわん

寛平御時

くわん

くわん

くわん

くわん

くわん

くわん

くわん

くわん



六いのちけり

九首

目録江守重

正木三博定

大丘

春廣言合

あつとととさしれきらた

のれあくにあははるし

こゝろたこね

あつととと

あつととと

あつととと

あつととと

業人

あつととと

あつととと

あつととと

あつととと

あつととと

二首

あつととと

あつととと

あつととと

秋奉















夫よきことあり

今所ぬ

らむとてまよふこと

たれとてまよふこと

たれとてまよふこと

たれとてまよふこと

よき事

たれとてまよふこと

たれとてまよふこと

たれとてまよふこと

秋の首 古今和歌集巻第

杜若

秋の首のよめ

秋の首のよめ

秋の首のよめ

秋の首のよめ

秋の首のよめ

元首

目ら敏行

信高上右兵衛

信實寛年七

信之丞上

信家使留

土督男廿二

三下刊下

名席女

心夢不

内輪



雨子れきりくらしと云  
全誠具見自  
糖  
に有常奴子に

ののこもかものこもに  
ののせいのこもからに  
こもよま

こもよま

ののこもれきりくらしと云

ののこもれきりくらしと云

ののこもれきりくらしと云

在家持集  
ののこもれきりくらしと云

ののこもれきりくらしと云

ののこもれきりくらしと云

ののこもれきりくらしと云

ののこもれきりくらしと云

ののこもれきりくらしと云











Handwritten text in cursive script, likely a signature or name, located in the upper right section of the page.

Handwritten text in cursive script, located in the middle right section of the page.

Handwritten text in cursive script, located in the lower right section of the page.

Handwritten text in cursive script, located in the middle section of the page, spanning across the vertical line.

Handwritten text in cursive script, located in the middle left section of the page.

Handwritten text in cursive script, located in the middle left section of the page.

Handwritten text in cursive script, located in the middle left section of the page.

Handwritten text in cursive script, located in the middle left section of the page.

Handwritten text in cursive script, located in the middle left section of the page.

Handwritten text in cursive script, located in the middle left section of the page.

Handwritten text in cursive script, located in the middle left section of the page.

Handwritten text in cursive script, located in the middle left section of the page.

後丸其回  
あきの  
うせの  
けさる











だ、みぬ  
 秋のよき月のおつりあり  
 月とともなる在原を  
 秋のよき月のおつりあり  
 月とともなる在原を  
 秋のよき月のおつりあり  
 月とともなる在原を

秋のよき月のおつりあり  
 月とともなる在原を  
 秋のよき月のおつりあり  
 月とともなる在原を

四首  
 同左書房  
 従王下左書  
 佐良山  
 城守正長  
 本齋廣政  
 乃孫是嗣子

秋のよき月のおつりあり  
 月とともなる在原を  
 秋のよき月のおつりあり  
 月とともなる在原を











朗詠集

なぐる(とをす)も  
せに(は)は(し)し(し)か  
し(も)も(な)は(ね)る(か)り  
し(は)は(の)い(ん)ら(ま)  
し(も)も(あ)い(な)く(に)  
又(あ)い(た)た(の)き(た)  
さ(も)も(た)り(み)ら(あ)  
い(な)く(に)

我日躬恒有  
于年以成界  
和沈于時月  
乙瀧口八彦作  
竹堂下時林  
鷹追鳴有柳  
今東堂然和  
秋爰唱者流  
字人(胡)弄反  
新拉於瀧口  
毎日到佳境  
次請(人)感  
今業(今)力  
化奇(下)在

い(な)く(に)は(な)く(に)  
し(も)も(あ)い(な)く(に)  
又(あ)い(た)た(の)き(た)  
さ(も)も(た)り(み)ら(あ)  
い(な)く(に)  
し(も)も(あ)い(な)く(に)  
又(あ)い(た)た(の)き(た)  
さ(も)も(た)り(み)ら(あ)  
い(な)く(に)



寛平御時よさのこや一首

のこよのこた

に存厚のすね纏

別紙

あふのこはこあつとほしあ

なぐくらしゆねはあふ

のさあしうりさうあふ

あひなきさうとさう

みはれ

目云出宮様

新成人御時

四下式了太甫

春言高五

十一

後崇謙贈三

位従之上帝

新御時

早下右と

普良尚

あふのこはこあつとほしあ

なぐくらしゆねはあふ

のさあしうりさうあふ

あひなきさうとさう

の哥合のこた

をいみぬ

あふのこはこあつとほしあ

なぐくらしゆねはあふ

のさあしうりさうあふ

枝歌



世尊有寛介

中官平合

依九集

但五集字

の字あり

又河上あり

ひんぎまて

たつらばの又念と

なくやこに十三ちりりま

をなくしかりうらまはく

ごまろ林をのりしん

たにしと

わこをたにう心林を

和しんま乃山しんたも

しんぬくし

不守をまをうううう

せくなくしん

まぐたもめやや

これあたのうのう乃

念よううた

世尊のうまの

林をののれうな

かやのたのうのうけ

たしんあ

まら人の林のうのう

待合三不  
字十生者  
奇合

廿六人



ためくたかきけいて  
にまわつ 子日記

初まはらるるもあはれは  
らさししはあはれは  
わはれはあはれは  
たはれはあはれは

難波のくまのあはれは  
あはれはあはれは  
あはれはあはれは

なまはれはあはれは  
たはれはあはれは  
あはれはあはれは  
あはれはあはれは

この奇あはれはあはれは  
あはれはあはれは  
あはれはあはれは



家守良  
但し  
か

ふらぐみあたらそ  
林さそろにたす  
にかたろしは

後見良

ひのあ

茶家良

はしゆく  
なれたの  
の奇合に

如月六  
二首  
奇三

一  
二首

目  
康  
信  
新

あまのになく  
たの  
か  
は

信



いづちをさるとはしにた  
うらなふをさうらふと  
うらなふと

あはれいふこら

三首

おろまへししりきとみらふ  
ゆきさきくたはらうし  
おろまへししりきとみらふ  
おろまへししりきとみらふ  
おろまへししりきとみらふ

目ら市指合  
道長五下三  
河介貞純  
寛平人

のま

在寛平中  
干合

寛平は  
寛平は  
寛平は

あまのい下とあつし  
おろまへししりきとみらふ  
おろまへししりきとみらふ  
おろまへししりきとみらふ  
おろまへししりきとみらふ

二首  
目ら小野  
村は下  
乃下  
江  
坂  
本二平

朱雀院のをみるへし

おろまへししりきとみらふ  
おろまへししりきとみらふ







昌泰元年

よきれつしものをよそ

くらあはれお替はりも

みくぬまかしくも

ききみぬ

人のこころしきく

たなるししはまの

きりかひくらし

ひごわのこたけは

しきりしあはれ

辰度

辰度

にうたへるし

そのくりにわたるに人

れいにまなうしう

たかきよき

みゆかれお小

はもきく

寛平西時

くしん

智録

智録

の今三六  
は  
の  
大君



たのこしはゆめを  
ふらふてミレミレ  
ふ時かつらぎく  
ミけついにま

平のたのこし  
九首

しれはつらぎく  
うしをミレハ  
いにゆな  
れはたのこし

目らた文号  
平仲子時  
兵衛尉  
後之上行  
才介右中將  
風一男

のうたのこし  
いゆに細

才介右中將  
長元三年

たのこしはゆめを  
ふらふてミレミレ  
ふ時かつらぎく  
ミけついにま  
しれはつらぎく  
うしをミレハ  
いにゆな  
れはたのこし



製

つらちのうらやまのこころを  
にほひてくはれ  
よらちのうらやまのこころ

あせがし  
秋のうらやまのこころを  
よらちのうらやまのこころ  
よらちのうらやまのこころ  
よらちのうらやまのこころ

つらちのうらやまのこころを  
よらちのうらやまのこころ

寛平御時のまつり

やうき合のこころ

左のうらやまのこころ

あまのこころのうらやまのこころ  
れまのこころのうらやまのこころ  
うらやまのこころ

あまのこころ







くせうのうらみのうらみ  
いふはわたしのうらみ  
ふあはのうらみ  
あとのうらみのうらみ  
ようきわたしのうらみ

(カニ)

あはれはあはれ  
やうきわたしのうらみ  
あはれわたしのうらみ

秋

古今和歌集巻第五 秋歌下

秋六十五  
首

あはれわたしのうらみ  
あはれわたしのうらみ

あはれわたしのうらみ  
あはれわたしのうらみ  
あはれわたしのうらみ  
あはれわたしのうらみ

古今和歌集  
巻第五 秋歌下  
六十五



わいふこひたののくちま

秋なつちま

わたの哥合一のうた

よこけ

月のまはら

一首

目ら珠琴

此行傍名ハ  
落秀入也  
大傍名美

十三らせねこまをれおは吹  
何いれとよ下林とまわち  
ら  
れいふらひんもまへす

千時氏より大長  
原足五上中書  
學士中書長  
右権一男匠  
本下九と守

新撰在卷  
在案持原  
但わつあ  
わつたて  
うわけ

まわららるる  
なまかろ  
十三らとね  
らと中  
十  
つる  
なつた  
くわ  
ら